

## ⊕ 鹿児島便り

祖父江ひろみ（高21回）



江戸末期、天璋院篤姫は、江戸に向けて京都經由1,600kmの行程を、2ヶ月間かけて旅しました。現在、東京～鹿児島間飛行距離約

967km、飛行時間1時間30分です。また、日本本土最南端・鹿児島県佐多岬は、インドのニューデリー、エジプトのカイロと同じ北緯31度です。（東京は北緯35.7度）

### 夕暮れ・甲突川(こうつきがわ)ほとりにて

昨年7月から、鹿児島に住んで、早一年がたちます。暮れなずむ「櫻島」を眺めながら、「甲突川」ほとりに建つマンション5階、我が家のベランダに立つと、川風がなんとも気持ちよく吹き抜けます。鹿児島最大の歓楽街・天文館の灯がちらちら点りはじめ、まもなく、近くの「焼酎」の大きな広告塔がライトアップされます。「天文館」は、「薩摩暦」などで有名な⊕島津藩御用達の天文台のあった場所で、期待膨らませて初めてこの地を訪れた天文学者の夫は、予想外の「異業種」の繁栄ぶりに少々驚いたようです。鹿児島大学には銀河系電波天文学の日本有数の拠点があり、夫は研究と教育の主導を請われて、この地に赴任しました。

九州新幹線、日豊本線、指宿(いぶすき)枕崎線の発着駅の JR 鹿児島中央駅近く、

市内を大きくカーブしながら流れる2級河川・甲突川には、我が家から、4つの橋が架かっているのが見えます。斜め向かいの歴史資料館「維新館」前には風情のある木造りの「南州橋」が架かり、たもとは⊕島津藩御紋章入りの灯籠があって、なるほどだと思います。かつて、⊕島津藩77万石城下町の「加治屋町」のこの辺りは下級武士居住区でした。西郷隆盛生誕の地には、一見空き地のようなところに、樟(くすのき)の古木に囲まれて質実剛健な碑だけががちりと建っているのですが、その簡潔さが、かえって見る者を圧倒します。大久保利通、東郷平八郎、大山巖等、幕末から明治にかけて活躍した薩摩隼人たちが生まれ育った地域です。

すぐそばの高見橋のたもとは、南国らしいフェニックスやソテツの濃い緑に囲まれて、「大久保利通」の像が立ち、向かい合って「坂本竜馬」の妻おりょうさん像がそっと腰掛けています。豪傑たちの伝承の多い土地柄のなか、その優しい風情にふっと心む思いがします。幕末、京都伏見で傷を負った坂本竜馬が、彼女を伴って薩摩の小松帯刀の屋敷に身を寄せ、つかの間の休息を楽しんでいます。（現在市内の源泉数は100を超え、30以上ある銭湯のほとんどが温泉です。¥300～360）

そこから少し視線を上げると、緑なす城山の高台には、西郷隆盛が日本最後の内戦・西南戦役・田原坂16日間の激戦の末に最後の一週間を過ごした洞窟があって、訪れる観光客の胸を詰まらせています。東京上野に立つ西郷さんの像は、高村光雲の名

作ですが、犬好きだった彼が従えているのは「櫻島産・薩摩犬」です。

薩摩は三方を海に囲まれ、鎖国時代にも南海貿易が盛んでした。海外事情にも明るく、特に19世紀初頭のアジア情勢には、地理的条件からも危機感を深め、島津斉彬は集成館事業を興し、富国強兵と人材育成をはかり、薩摩は明治維新を主導していくこととなります。

「生麦事件」は島津久光の行列の「サムライのプライド」が引き起こした、歴史上の大事件ですが、それに続く「薩英戦争」などと、今から考えたらとんでもない戦争は、しかし、日本の最大最新の兵器を使って、それなりの成果を挙げた戦いでした。二日間の戦闘で英艦隊側の人的被害は、艦長が直撃を受けて戦死したのをはじめ、13人の死者と負傷者50名。薩摩側は物的被害は甚大でしたが、死者5人、負傷者18人。幕末から明治にかけて、世界の列強から日本を守ったのは、皮肉にも、日本最強最後の「サムライたち」だったのではないのでしょうか。

薩摩の「要塞」の財政的なバックボーンは、南西諸島の「黒糖」（島の住民には非常に過酷でした）、タバコなどの専売、南海貿易。また、島津藩は直轄の金山を幾つか持っていました。（一時「佐渡」を上まわり、現在も国内の90%を産出）

余談になりますが、この地の夫の知り合いに先祖は「抜け荷」業者だったという人がいて驚きました。ちなみに、鹿児島の話ではありませんが、「曾祖父が刺客」だったという友人もいて、こちらは、ちょっと、尋常ではない話です。

## 錦江湾と櫻島

櫻島は標高1,117mの活火山ですが、今年2月6日朝、2年間の沈黙を破って噴火しました。以来、小さな噴煙が度々上がります。錦江湾（櫻島以北）は実は、2万7千年前に爆発した始良（あいら）火山のカルデラ湖であり、櫻島は2万5千年前にその南端に噴出した火山だということです。始良火山爆発の噴煙は高度4,000mまで噴き上がり、偏西風に乗って日本中に火山灰を降らせました。青森で5cm、北海道で1～2cmのシラス（火山灰）が地層の中に確認され、当時の爆発の凄まじさを伝えています。



2月の噴火以来、警戒度はレベル2からレベル3に（5で避難）…風向きによっては黒っぽい火山灰がうっすら積もります。それ以前より、市内にはところどころに「火山灰置き場」が設けられていますし、「市民便利手帳」には櫻島が噴火した時の注意書きが特記されています。

毎夏、その錦江湾を「櫻島」まで泳いで渡る子供たちがいます。「錦江湾遠泳大会」、市内2校の小学生6年生の、まことに痛快な話です。また、腰をぬかすほど大きな「櫻島大根」はギネスに登録されましたし、世

界一小さな「櫻島小みかん」も採れます。九州最大のみかん「晩白柚（バンペイユ）」は熊本・八代産ですが、直径20cm！もあります。どれもこれも自分の小さな常識が覆されて愉快です。「櫻島」には、現在6,400人がその麓に暮らしています。「櫻島フェリー」は年中無休・ほぼ24時間体制・片道15分・¥150です。高校生が通学に使い、あるときは、救急車も乗船していてびっくりしました。

### 鑑真和上 上陸の地

黒潮洗う薩摩半島南端の海岸は、特に歴史的な場所です。有名な指宿温泉、開門岳（薩摩富士）枕崎市（鰹漁業）、坊の岬を廻り込むと、野間岬まではリアス式海岸の、とても静かで美しい海岸線が続きます。「坊の津」は博多津、津（三重県）と並ぶ日本三津のひとつで、遣唐使や遣隋使はこの港から中国に向けて出発しましたし、753年、唐の高僧「鑑真和上」が、12年の歳月をかけて日本本土上陸第一歩をしるしたのも、この海岸でした。「鑑真記念館」のある秋目海岸はとくに美しく、5月初めに訪れたときには梅檀（センダン）の薄紫の花がとても印象的でした。（梅檀は、関東ではあまり

見かけない、枝ぶりの良い上品な木で、桜が咲き終わる頃に薄紫の花をつけます）

しかし、今からたった62年前、昭和20年太平洋戦争末期、人類史上類なき「特攻作戦」のもと、1,036人ももの若き「特攻隊」がこの海を越え、沖縄に向けて飛び発って二度と戻りませんでした。同年、「戦艦大和」がやはり沖縄に向けて山口県徳山を出陣しましたが、翌日、米軍の圧倒的戦力下、坊の岬沖90海里（170km）にて沈没。乗組員2,498人戦死。

鹿児島「知覧特攻平和記念館」には毎年60万人以上の人々が訪れて、それらの事実を胸に刻んでいます。

### 天文スペクタクル・日蝕

来年平成21年7月22日は、今世紀最大の「皆既日蝕」があり、鹿児島市内からも95%の部分蝕が観測できます（午前中、11：00皆既）。

最後に、薩摩の「焼酎」ですが、その種類なんと3,000種！「おはらしょうすけさん」のふるさとには鹿児島でした。

平成22年には新幹線が全線開通します。皆様、是非鹿児島にお出かけください。